



DRYの多義に関する一考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮畑, 一範 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00002779

DRYの多義に関する一考察

宮 畑 一 範
 <kazm@lc.osakafu-u.ac.jp>

0. 多義語の意義展開には、我々の世界認知の方策が密接に関わっており、従って、多義語の各意義間には非常に体系的なネットワークが観察される。また、ある多義語の意義と別の多義語の意義との間の関係に目を向けると、我々の意味（概念）体系の網目の接点を垣間見ることができる。本論では、DRYを取り上げ、その多義構造を記述することを中心に据えながら、特に展開する各意義と対義をなす意義との関連も明らかにしていく。

なお、多義構造の考え方や意義展開パターンについては、瀬戸（2001, 2005a, 2005b）に依拠する。また、本論の用例は、基礎的資料としてBNCを利用すると共に、多様なバリエーションを確認するためにインターネット上で収集可能な一般的な使用例とネイティブスピーカーによるチェック¹⁾を活用し、できうる限り簡潔なパターン化した形に処理をして提示している。

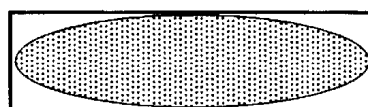
1. DRYの中心義

1.1. 中心義0：水気がない

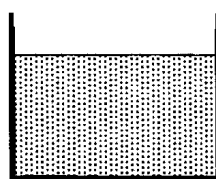
DRYの中心義は、問題となるものが「水気がない」とであると設定できる。「ない」という状態を認識するためには「ある」という状態の認識が前提となる。この「水気がある」という意味はWETが受け持ち、スキーマ的に大きく2つのタイプが観察される。



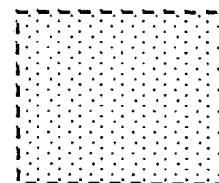
【タイプA】



【タイプB】



【タイプB-1】



【タイプB-2】

¹⁾ 筆者の旧友であるArturo R. Guajardo氏には、インフォーマントとして色々と貴重なコメントを頂戴した。この場を借りて、深く御礼申し上げたい。

ひとつは、物の表面に水気が付着している場合（【タイプA】）である。典型的には、表面に水滴のような形で水気がついている状態である。そして、この水気が「ない」状態をDRYが受け持つ。

(1) The surface of the floor is wet/dry.

もうひとつは、物が水気を含んでいるという場合（【タイプB】）である。典型的には、物の内部に水気が内包されており、外力が加わるなどの何らかの外的作用により、その水気が内部からなくなる、という状態である。そして、この水気が「ない」状態が同じくDRYということになる。

(2) The kitchen towel is wet/dry.

とは言え、この区別自体が重要であるという訳ではない。例えば、(3)の場合、

(3) The ground is wet/dry.

「水たまりがある/ない」という解釈であれば、地表の水気に関心が向けられており、「ぬかるんでいる/乾いている」と捉えるならば、地面に含まれる水気により注意が向けられているだけであって、いずれにしても、「水気のある/なし」の対立で捉えられていることには変わりがない。

物が「水気を含んでいる/いない」は、より明確に容器と中身の関係に投影されて、「容器に水気が入っている/いない」の対比となりうる（【タイプB-1】）。

(4) Place a towel in the wet bucket and drape one corner of the towel in the dry bucket.

a dry lake [fountain, well, ditch] のような表現も類例である。²⁾

また、見立てを介して、空気や天候などを入れ物と捉え、そこに「水気が含まれている/いない」という意味にも適用範囲を広げる（【タイプB-2】）。空気であれば、その中に浮遊している（と考えられる微小な）水滴（つまり、湿気）のある/なし、天候であれば、その空間での水滴（即ち、雨）のある/なしを表す。

(5) The air [weather] is wet/dry.

²⁾ 面白いことに、この容器タイプの類例のうち、(4)に挙げたbucketと、ditchは、dry/wetのいずれとも共起するが、lake、fountain、wellはふつうwetとは共起しない。おそらく、これらが、あらかじめ容器として存在していて水の有無が問題になるのではなく、水で満たされていて[水が湧き出ている]はじめてそう呼ばれるに相応しいものであるからだと考えられる。

対応する日本語表現という観点で言えば、DRYは「表面に水がついて [かかって] いない」から、「(からからに) 乾いた」までを幅広くカバーすることになる。小包などにつけるKEEP DRYという指示（日本語では「水気[水濡]厳禁」）や、

(6) To prevent infection, instruct the patient to keep his finger dry for 2 days.

のようなDRYは前者の類例で、「濡れていない」（濡らさないようにする）に対応するものである。dry fruits や dry weight などは、後者の類例で、「乾燥（した）」が当てはまる。物の水分をなくせる限りなくした状態（からから）³⁾である。

「水気」というと、典型的には「水分」であるが、「水」に極めて近いと見なされる体液である涙や唾液など⁴⁾も対象として含む。(7a)では「涙を流していない」、(7b)では「(眼球の表面が) 涙で潤っていない」の意である。

(7) a. My eyes are dry now but still sore from the tears I have wept.
b. Damage to the tear ducts can result in dry eyes or wet eyes.

(8)は口の中が唾液が湧かず「からからに乾いた」状態を意味する。

(8) Her mouth was dry from nervousness [calling out].

これは、人体そのものから水分が奪われた時に起こる（感じる）状態でもあり、その意味では、我々の身体感覚としては、【タイプB】での「水気がない」と認識しているとも言える。そのため、水気がない物（水気の補給をしなければならない対象と捉えられる物）として、(9a, b)のように喉や人（人体）も可能になる。

(9) a. My throat is dry and I want a pint to sooth it.
b. I'll drink when I am dry.

³⁾ 日本語の「からから」が「乾乾」でもあり「空空」でもあるのは興味深い。「水気がない」と「(入れ物の) 中身がない」とが通じているのである。

⁴⁾ WATER自体、体から分泌する「水分」を意味しうる。A little water ran out of his eyes from the intense pain. では「涙」のことである。また、動詞義としても、His eyes were watering. と「涙を流す」の意で使われる。The smell alone made my mouth water with anticipation. と「唾液を分泌する」という使い方も可能。但し、名詞義「唾液」という使い方は観察されない。これは、waterと口によって構築されるフレームにおいて、口が分泌器官としてよりも、摂取器官としてより強く意識されるために、waterに「(飲料) 水」という意味（解釈）が優先的に付与されるためであると考えられる。

1.2. 意義0-a：水気がないもの

中心義の「水気がない」という特性は、その特性をもつ「水気がないもの」という名詞義へと意義展開する（〔特性でもの〕の展開パターン）。具体的には、the dryという形式を取り、幅広く表現しうる。代表的なものとしては、乾燥した物、水で濡れていない場所、雨の降らない天候などである。⁵⁾

- (10) a. The dry can take at least 12hrs to digest.
 b. A wider tire will grip better in the dry.
 c. The dry may not be so good because one of the springs also went dry.

2. DRYの派生義 1

2.1. 意義1：水気がない状態にする

物の表面に付着した、あるいは、物に含まれる水気は、拭いたり、絞ったりすることによって、なくすことができる。例えば、(11a)のような表現が可能である。この「水気がない」という結果状態を引き起こすプロセスをDRYは表すことができる（〔結果でプロセス〕の意義展開）。(11b)がこれにあたる。「水気がない状態にする」という動詞義である。⁶⁾しばしば、off、out、upなどを伴う。

- (11) a. She squeezed her hair dry with a towel.
 b. She dried her hair with a towel.

⁵⁾ DRYの対義となるWETも、同様に「水気がある」から、その特性をもつ「水気があるもの」という名詞義に転じる。同じく、the wetの形で、水滴や水気一般、濡れた場所、雨降り（の天気）などが代表例である。

The wet dripped from every tree upon her head.
 Waterproof boots will keep the wet out.
 The shoes don't slip in the wet.
 Let's go back indoors, out of the wet.

⁶⁾ 対義関係のWETも全く同じ意義展開を見せる。「水気がある」という中心義から、その結果状態を引き起こすプロセスを表す動詞義「水気がある状態にする」に転じる。日本語で言えば、「濡らす」「湿らせる」という類の意味である。

It has only rained twice in the last 45 days and hardly enough to wet the garden.
 He had to wet his lips before he could speak.
 Thoroughly wet the sponge so it is saturated.

「水気がない」という形容詞義が、問題となる対象の表面に水気が付着していない状態から、水気が含まれていない状態まで広くカバーしたのと同様に、動詞義も、「表面に付着した水気をなくす」から「含まれている水気をなくす」まで幅広く表現しうる。また、「水気」も同様に、「水分」を典型に、水のように見える体液なども含む。

- (12) a. I dried off all of the water droplets on the phone.
 b. There's nothing to dry the sweat off.
 c. The water will be dried out after rainy season.
 d. I used towels to dry the water from the carpet.

「物の表面に付着した水気」と「水気が表面についた物」、また、「物に含まれる水気」と「水気を含んだ物」とは認知的にそれぞれ図と地の隣接関係にあるため、目的語として交替可能である。

- (13) a. Wash and dry the potatoes in a cloth.
 b. He took out the handkerchief and very carefully dried her eyes and cheeks.
 c. Every river is dried up.
 d. They made a fire to dry their clothes.

2.2. 意義1-a：水気がない状態になる

「水気がない状態にする」という他動詞義は、「水気がない状態になる」という自動詞義に転じる。この両者は原因と結果の関係にある（〔原因で結果〕の意義展開）。⁷⁾ 意義1の場合と同様に、水気が主語に来る場合と、図と地の隣接関係になる水気が付着した、あるいは、水気を含む物が主語に来る場合とが観察される。

- (14) a. Water on the foliage will dry before sunset.
 b. The sweat on his forehead dried up.
 c. Within a few months the excess moisture in the walls had dried out and all signs of damp vanished.
- (15) a. This way the dishes will dry more quickly and you won't need any tea towels.

⁷⁾ WETも全く同じ意義展開で意味が拡張する。「水気がある状態になる」の用例としては、次のようなものが挙げられる。

When the repellent finish has worn off, the surface fabric will wet out.
 Let's hope that the downpour at lunch time hasn't made the ground to wet.

- b. My mouth dried out [up] like a desert.
- c. Shorts, shirts, and light towels will dry in two to three hours.

2.3. 意義1-b: 〈考え・言葉・金を〉涸らす

「〈水気を〉なくす」は、考え、言葉、金などの抽象的なものを対象として「〈考え・言葉・金などを〉涸らす」という比喩的な意味に展開する。⁸⁾「なくす」という作用の類似性に着目しているので〔機能類似〕の展開パターンに分類できる。しばしば up を伴う。

- (16) a. Sitting between the familiar four walls of your office probably dried up your ideas.
- b. My words were dried up and I thought I would never write anything.
- c. The declining economy dried up the state's budget surplus.

この他動詞義は、さらに、結果にあたる自動詞義「〈考え・言葉・金などが〉涸れる」に拡張する。〔原因で結果〕の意義展開である。

- (17) a. All my thoughts dried up.
- b. When his speech dried up, she waded in.
- c. The funds dried up and the work stopped.

(18)のような「〈役者が〉台詞を忘れる」という使い方は、「役者(の頭)」(入れ物)の中に記憶している「台詞」(中身)があるという見立てをベースに、「言葉」(台詞)が、「役者(の頭)」に交替したものであると捉えられる。

- (18) The award-winning actress dried in mid-sentence and asked the playwright for a prompt.

これらの意義への拡張の背後には、「考え・言葉・金など」を「水(の流れ)」に見立てる枠組みが作用している。例えば、the flow of thought [speech, money]やAll thought [My words, The money] ran out.などの表現からその枠組みの存在は容易に窺い知ることができる。このため、「水気がない状態にする[なる]」の見立てが可能となるのである。

⁸⁾ この意義展開は、DRY独自のもので、対義のWETには対応する意義は存在しない。一方、日本語の「潤う/潤わせる」は、「生活[心]が潤う/を潤わせる」のように、「金銭的・精神的に満たされる/満たす」への比喩的展開が認められる。

3. DRYの派生義 2

3.1. 意義 2：水分を含む物が伴わない

中心義の「水気がない」と極めて似た意味であるが、問題となる物自体が水気を含まないのではなく、「水分を含む物が伴わない」（水気を含む物との近接関係が関わる）という意を担うものを分けて取り扱う。「ない」という特性の類似性を接点に（〔特性類似〕）展開していると位置付けられる。代表的な意味は、「〈牛などが〉乳が出ない」⁹⁾、「〈トーストが〉バター・ジャムを塗らない」、「〈壁などが〉モルタル・セメントを使わない」、「〈咳が〉痰の出ない」、「〈クラッチなどが〉潤滑油を使わない」、「〈イベント・場所が〉アルコールなしの」などである。¹⁰⁾

- (19) a. Cows are dry when forage is low.
 b. I like my toast dry and with powdered sugar.
 c. There was a dry wall built across the barrow.
 d. Many respiratory infections start out as a dry cough.
 e. Be careful not to get oil or grease on a dry clutch.
 f. His friends won't come because the party will be dry.

⁹⁾ 先に見た人体から水気が奪われている状態 ((9b)) は、水気が人体の隅々に行き渡っているという状態に対してこの水気がないという図式であるのに対して、乳牛の場合は、一般的理解として乳が全身にというよりも局所的に牛の体内にあると捉えられる点、また、牛乳が液体という範疇には含まれても中心義で想定される「水気」からは外れると判断できる点を踏まえて、この意義 2 での取り扱いとしている。但し、If no water is coming out, the well is dry. のような「干上がった井戸」の特性面（水が湧いて出ない）との類似による見立てが作用していることは否めない。

¹⁰⁾ 完全にDRYと対義になる訳ではないが、展開としては、WETも同様の意義展開で、「液状の物を伴った」という意義を認定することができる。「〈咳が〉痰の出る」、「〈クラッチなどが〉潤滑油を使った」、「〈イベント・場所が〉アルコールのある」はDRYと対をなす。

Your child may have a wet cough and cough up a lot of mucus.
 Some motorbikes have a wet clutch with engine oil running through it.
 The town is wet, meaning that liquor sales are legal.

その他、「〈食品・標本などが〉液体につかった」、「〈金属などの抽出が〉液剤を使った」、「〈夢が〉射精を伴う」などが代表的である。「〈夢が〉射精を伴う」は、寝ている間に下着を濡らすという点で、おねしょの見立てが作用していると思えることもできる。

a jar of wet walnuts (シロップ漬けになっている)
 a wet specimen of the brain stem
 the wet extraction of silver from silver ores
 The medical term for a wet dream is nocturnal emission.

4. DRYの派生義 3

4.1. 意義 3：甘み成分がない

「水気がない」から、「ない」という特性を引き継いで展開する「甘み成分がない」は、使用例のバリエーションとしては少ないが、さらに比喩的に展開する意義3-aを生み出す要として重要な役割を果たす。この意味は、SWEETが表す「甘い」と対になる味覚のうち、SOUR、BITTER、SALTYのように第一義的に「味」の意味を担うもの以外の味覚に関して、「ない」という特性の類似性を接点に（〔特性類似〕）受け持つものである。

代表例のひとつは、「〈ビスケットが〉甘くない」（dry biscuits）で、作る際に砂糖などを入れないものを指す。実際、砂糖分を多く含んだ物はしっとり仕上がることと比較すると、砂糖分を含まないビスケットが「水分がない」と結びつくのも頷ける。

もうひとつは、「〈ワインなどが〉辛口の」（The wine is dry.）である。これは、ブドウに含まれる自然の糖分が全て発酵に利用されるまで発酵が進んだ状態のものを言う。糖分が残っている状態のワインは、sweet wine である（砂糖のような典型的な「甘み」を感じる訳ではないが、糖分が関わっている）。¹¹⁾

4.2. 意義3-a：心地よさがない

SWEETが「〈食べ物（の味）が〉舌に快く甘い」という味覚の意味から、「〈声・音などが〉耳に快い」や「〈物事が〉心に快い」にメタファー展開するのと同様¹²⁾、DRYも「快い感覚を引き起こすものがない」という意味へ比喩的に拡張する（〔特性類似〕）。

人の声に関しては、(20a-c)のように「滑らかさ[元気、張り、艶]がない」という意味を表す。¹³⁾

¹¹⁾ 酒類に関して、DRY/SWEETの対比が、日本語では辛/甘に対応するのも面白い。同じある/ないの対立で捉えてはいるが、着目点が異なっている。日本語の「辛い」は、唐辛子や胡椒などの香辛料や塩分が舌に触れた時に感じるぴりっとくる刺激である。酒類の「辛さ」も舌に同様の感覚を生じさせる。この刺激は、慣れないと、あるいは、強度が増すと、不快感につながる。（酒の味（やその表現）を知らない子供でも、初めて口にした酒の「刺激」を言い表すのに、「辛い」（や「苦い」）を使うことができる。）逆に、この刺激が少ないと、舌にも優しく穏やかな感じとなる。ここに辛/甘の対立を生む下地があると考えられる。カレーや塩鮭の辛/甘も同じである。スパイスや塩分が（従って、舌への刺激が）少ないと「甘い」になるのである。

¹²⁾ 小田（2003）を参考に、SWEETの意義展開を概観すると、中心義は「〈食べ物（の味）が〉舌に快く甘い」という味覚の意味で、これが、味覚以外の嗅覚、聴覚、視覚、触覚に適用範囲を広げる。また、甘さに伴う快さをベースに、人・動物などを愛おしむ心情や、物事が快くうれしいことも意味する。

¹³⁾ 物音に関しては、下の例のように、音を立てる物自体が水気がないことが多数観察される。これは、物の特性がその音に転移した用法になっており、ここで問題にしている「心地よさがない」とは別物として考えるのが妥当である。

- (20) a. We listened to his dry and unfeeling voice.
 b. When he spoke again his tone was dry and unemotional.
 c. To my ears, microphones tend to distort his voice, giving it a harsh, dry sound.

また、言動や話の内容などに関して、(21a-c)のように「人間味[情感]がない」や「面白味[味気]がない」という意味を表す。¹⁴⁾

- (21) a. The request sounded impeccably polite, but tinged with dry sarcasm.
 b. His speech was dull and dry.
 c. They sent us back a dry, official explanation.

このような「心地よさがない」から、さらに「ない」が一般化すると、「<事実などが>飾り気がない」や「<練習などが>本番で使う物を使わない」¹⁵⁾など「あるものが含まれない」という意味にも広がる。

- (22) The book does not focus on dry facts and figures, but on personal accounts.
 (23) It was meant to be a dry run for a much bigger event in April.

¹⁴⁾ 同じ「ない」という特性に着目するが、日本語では「味がない」がベースとなる。「無味乾燥」では、「水気がない」も含まれるが、やはり「味がない」を伴う。

¹⁵⁾ 「予行演習」という意味で使われる dry run がなぜ DRY なのかという理由は特定できないが、その候補となりうる説を見ると、DRY の多義性との関連が窺えて非常に面白い。一説によると、arroyo のことだと言われる。大雨が降ると川となって流れるが、普段は全く（あるいは、ほとんど）水がない涸れ谷のことである。これを「本番」に対する「練習」と見立てている、と考える訳である。また、火災を消火する際の出動を fire run と言うのに対して、出動はしたもののすでに自然鎮火していたなどで消火の必要がなかった出動のことを dry run とする職業用語をベースと考える説もある。これも、「本番」の出動に対して、本番の活動を必要としないという意味でいわば「非本番」の出動という見立てが作用している。もちろん、この場合の DRY も、放水しない訳であるから、当然「水気がない」と結びつく。軍事演習においては、実弾を使わずに空砲を使う練習のことを dry run と呼んでいる。これは、実射 (= fire) と対をなす側面を有しながら、一方で「実弾を使わない」と、「ない」ことと響き合う部分も認められる。救急車が出動したものの、利用を拒否されたり、それほど状況が深刻ではなかったために病[怪我]人の搬送をせずに終わった出動も同じく dry run と呼ばれることがある。消防車の出動の場合をそのまま転用したと見することもできるが、一方で「病[怪我]人の搬送を必要としない」とこれもまた「ない」との関連性を保持している。

5. まとめ：DRYの意味ネットワーク

これまで見てきた各意義の関係をまとめると、DRYの多義構造は、次のように記述することができる。意義展開図は、WETとSWEETのものと共に最後にまとめて掲げる。

「水気がない」が中心義**0**。この特性をもつ**0a**「水気がないもの」という名詞義に転じる。「水気がない」状態を生み出すプロセスを表す**1**「水気がない状態にする」という動詞的意義に展開した意味は、その結果にあたる**1a**「水気がない状態になる」と、水に見立てられる考え・言葉・金などに写像して**1b**「〈考え・言葉・金などを〉涸らす」とに拡張する。後者はさらに、結果にあたる「〈考え・言葉・金などが〉涸れる」に広がる。中心義はまた、水気がないように**2**「水分を含む物が伴わない」という意味に拡張する。さらに中心義は、「ない」という特性を接点に、**3**「甘み成分がない」へと展開し、比喩的に**3a**「心地よさがない」、さらに一般化して「あるものが含まれない」の意味まで受け持つ。

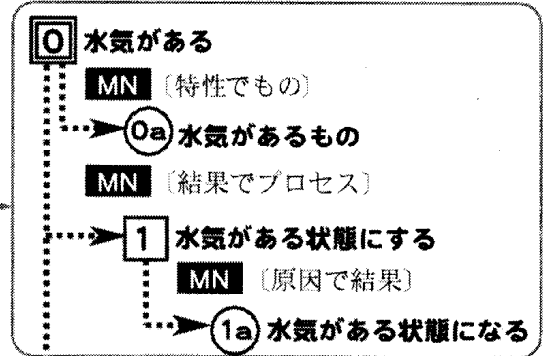
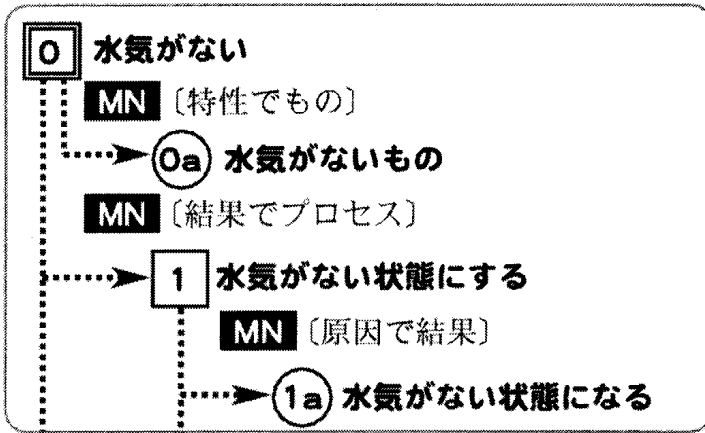
WETは、この中核部分に関して、DRYとびたりと対応する意義展開を見せ、きれいな対義関係をなす（中心義、意義0-a、意義1、意義1-aの相互対応）。意義2に関しては、きれいに対称をなす訳ではないが、多くの部分で対義関係を保つ。

意義3以下は、DRY、WET共に独自の意義展開を見せる。¹⁶⁾ DRYの意義3「甘み成分がない」は、SWEETの中心義の対義の一端を担う。そして、SWEETの派生義のうち、特に耳に対する快さと心に対する快さがなくという対義部分をDRYが担う。

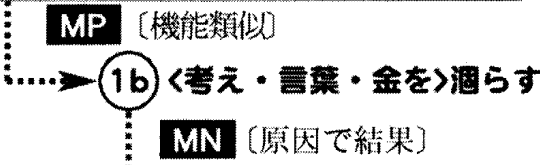
¹⁶⁾ WETは、「水気がある」でも特に「涙がある」ことの原因と捉えられる「〈人が〉意気地がない」に拡張し、そこから、その特性をもつ「意気地がない人」に転じる。

DRY

WET



対義

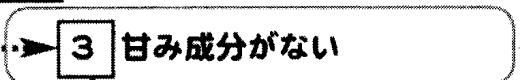


MP [特性類似]

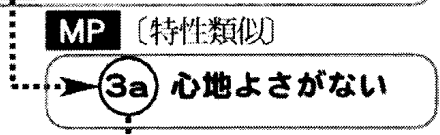


ほぼ対義

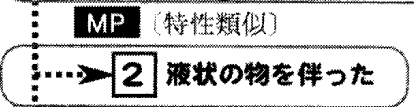
MP [特性類似]



一部が対義



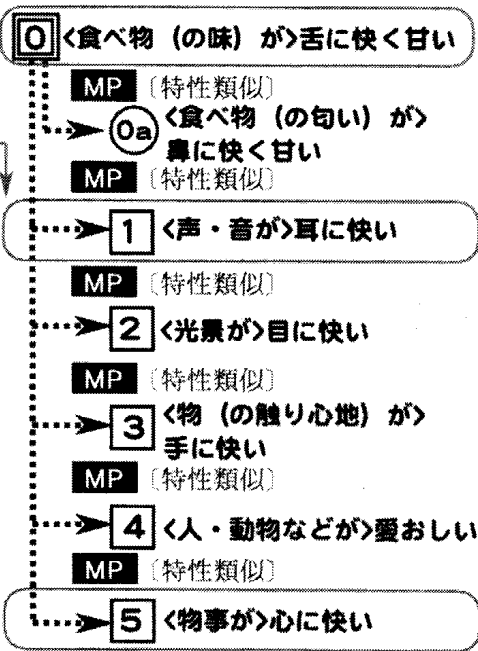
ゆるやかな対義



MN [結果で原因]



SWEET



- MP** メタファー
- MN** メトニミー
- SY** シネクドキ

参 考 文 献

- 小田希望. 2003. 「甘くてスウィート」瀬戸 (編著) (2003), pp. 186-214.
- 瀬戸賢一. 2001. 「理想の英語辞書 (2) 一意義関係を記述する」『英語青年』5月号, pp. 9-11.
- . 2005a. 『よくわかる比喩』研究社.
- . 2005b. 「多義語の記述：理論と実際」日本英語学会第23回大会シンポジウム.
- . 2005c. 「日本語らしさの語彙—あまから考」『月刊言語』12月号, pp. 21-29.
- 瀬戸賢一 (編著). 2003. 『ことばは味を超える—美味しい表現の探求』海鳴社.

British National Corpus. URL: <http://www.natcorp.ox.ac.uk/>

Quinion, Michael. "Dry Run," *World Wide Words*. URL: <http://www.worldwidewords.org/qa/qa-dry1.htm>

(大阪府立大学 助教授)